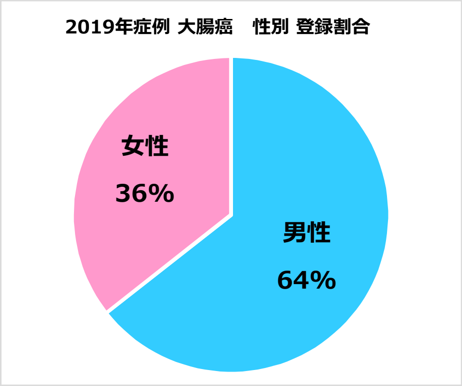
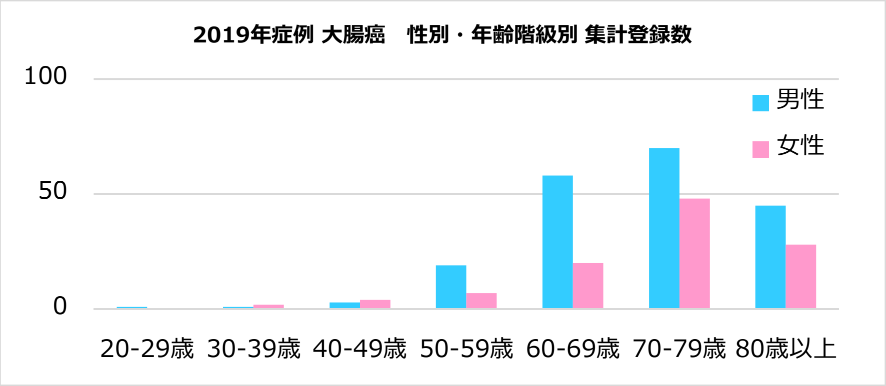
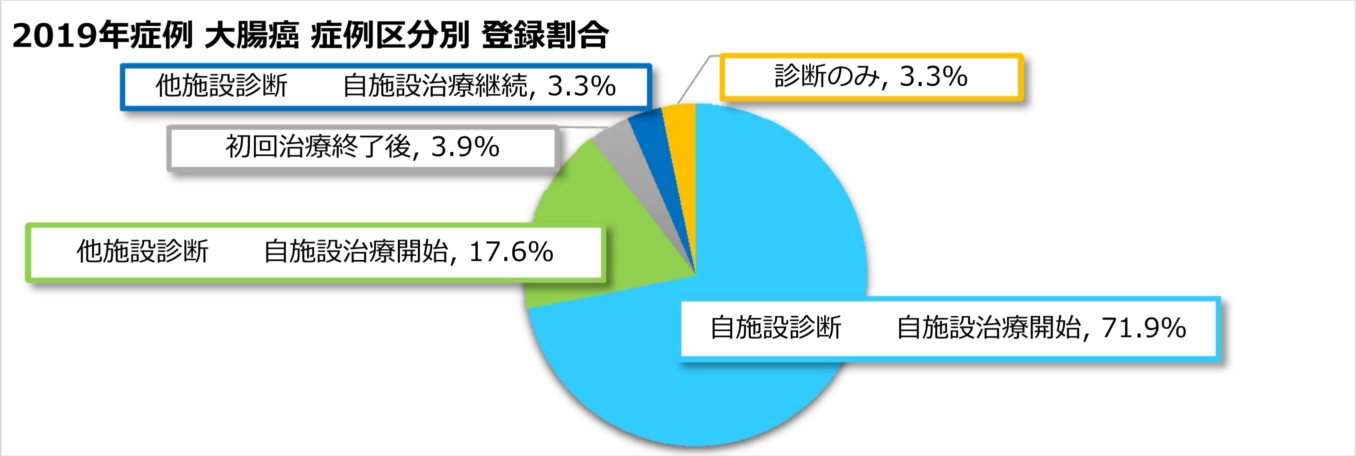
2019年症例 大腸癌

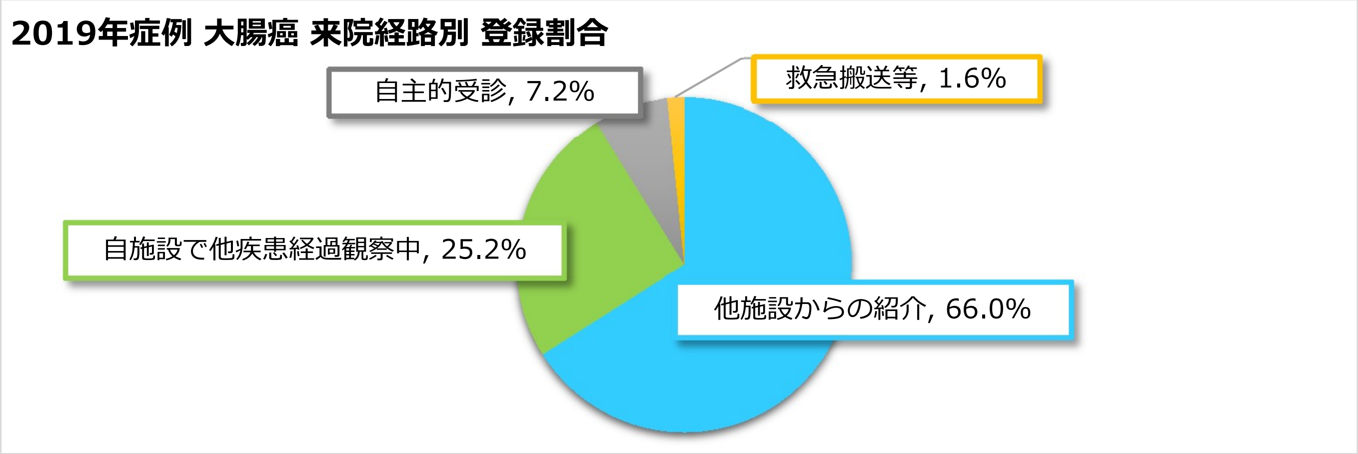
1 性別・年齢階級別（セカンドオピニオン等除く）

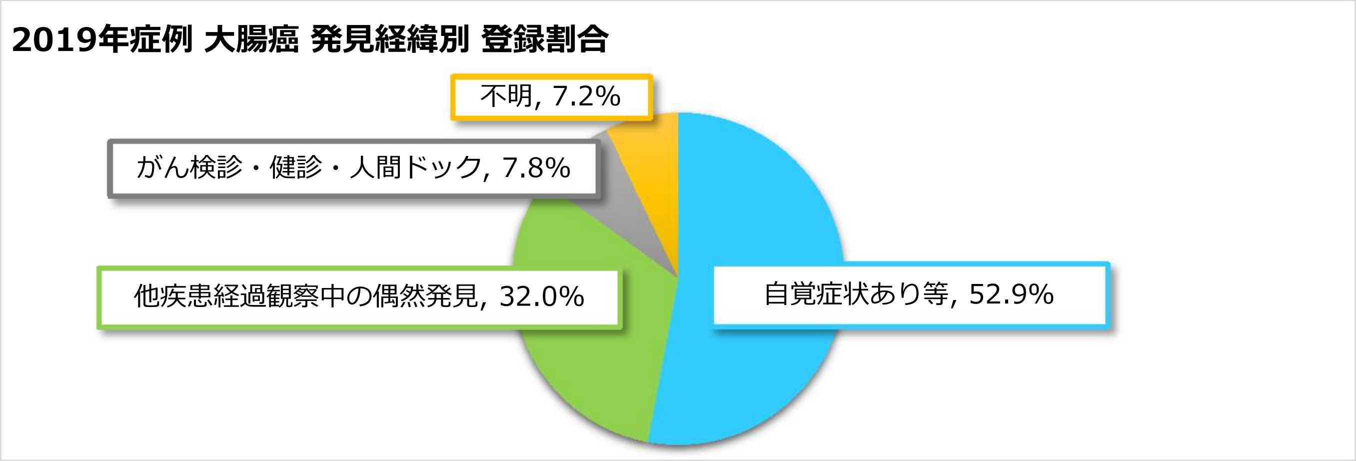




2 症例区分・来院経路・発見経緯（セカンドオピニオン等除く）

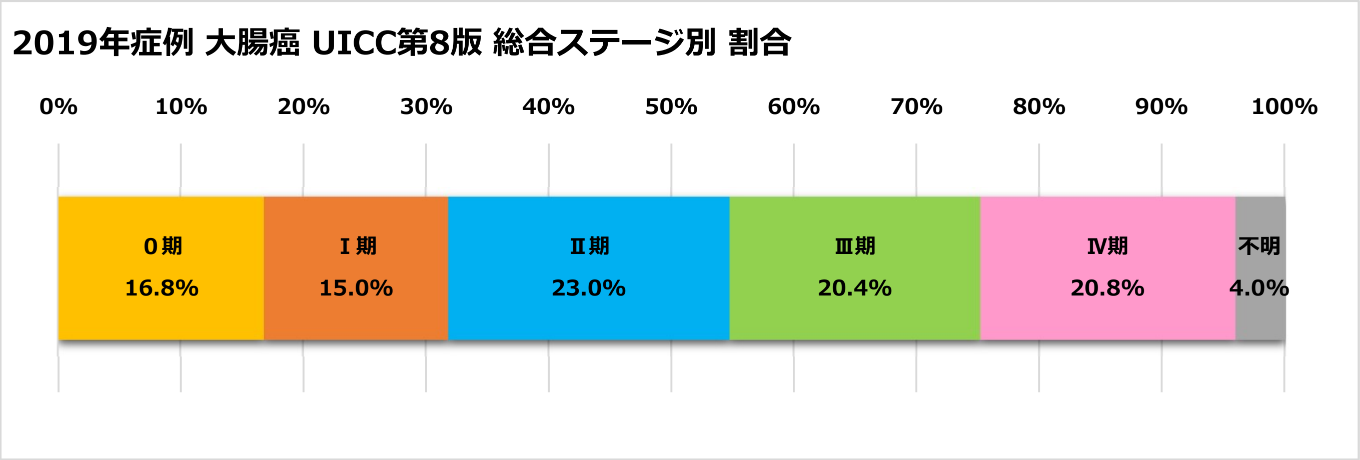




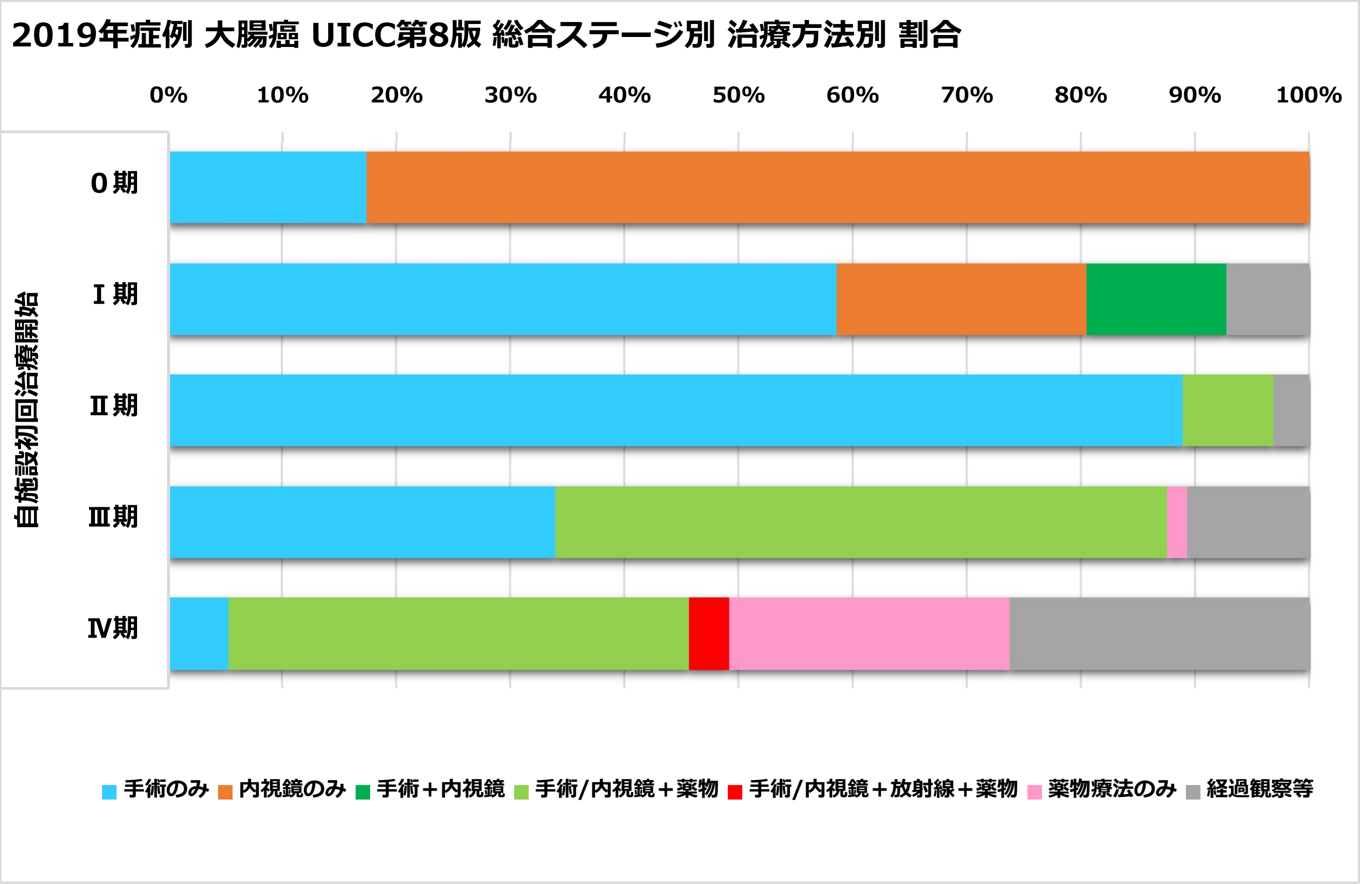


3 UICC第8版 総合ステージ

※当院で初回治療を開始した症例のみを集計した資料になります。診断のみの症例、他施設からの継続症例、初回治療終了後の緩和医療等に該当する症例は含みません。
※他院で初回治療を開始した後に当院で行った治療や再発時の治療は含みません。
※国際疾病分類（UICC第8版）及び院内がん登録のルールに従い集計しています。一般に用いられている取扱い規約分類と異なる場合があります。
※総合ステージとは、臨床ステージに術後病理学的結果を加味したステージであり、がんの治療開始時におけるもっとも確からしいステージを示しています。
※国立がん研究センターがん情報サービスの「院内がん登録全国集計結果閲覧システム」の施設別集計値と異なる可能性があります。（初回治療実施期間等の定義の違いによる）

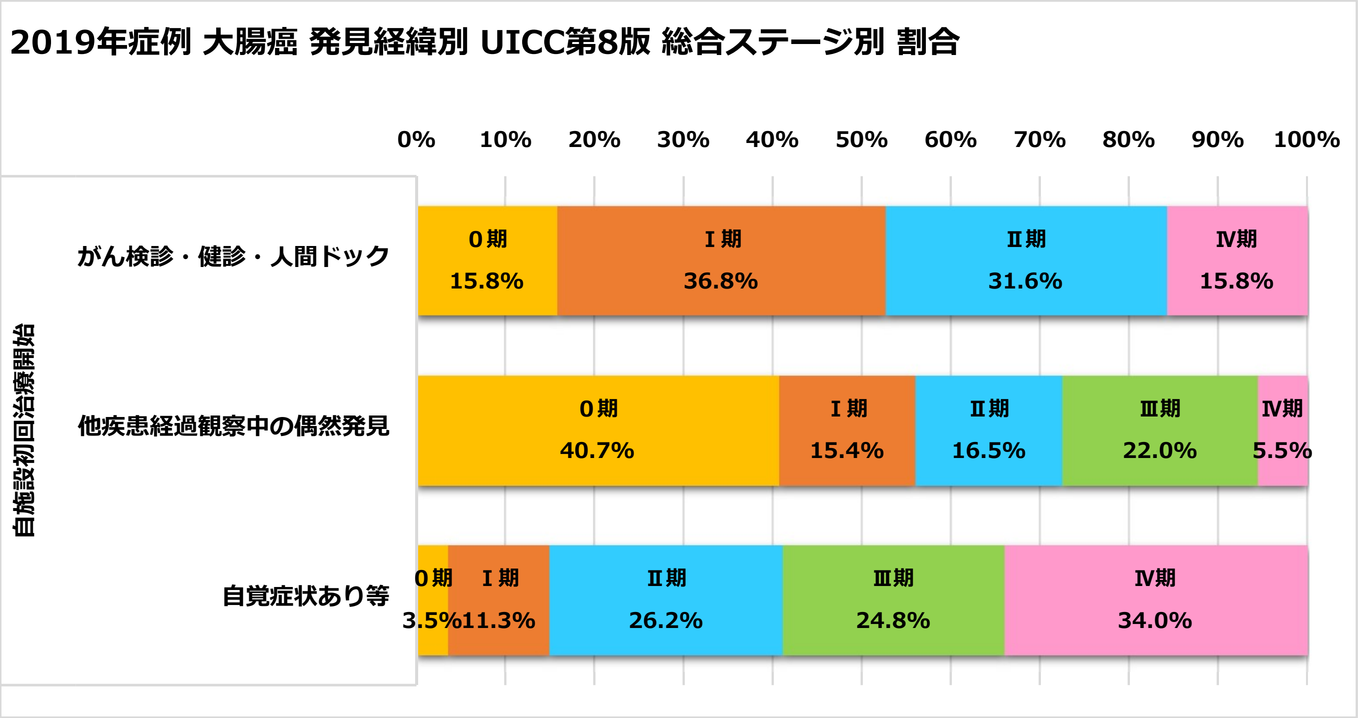


がんの進行の程度は、「病期（ステージ）」として分類し、ローマ数字で表記することが一般的です。大腸癌は、早期から進行するにつれて０期～Ⅳ期に分類されます。



大腸癌の治療には、内視鏡的治療、手術、薬物療法などがあります。治療法は、がんの進行の程度、全身状態、年齢、希望などを考慮して決めていきます。

4 発見経緯とステージ



上のグラフは、当院で初回治療を開始した大腸癌症例について、発見経緯別にがんの進行度を示したものです。０期・Ⅰ期の早期発見は、「がん検診・健診・人間ドック」と「他疾患経過観察中の偶然発見」の場合は50%を超えているのに対し、「自覚症状あり等」の場合は約15%です。このことから、大腸癌の早期発見には「がん検診・健診・人間ドック」が有効であるといえます。ちなみに、「他疾患経過観察中の偶然発見」の「他疾患」には大腸ポリープなどの大腸疾患が含まれるため、０期（がんが粘膜内にとどまっている状態）での発見が多くなっています。

国は、がん検診の効果について評価を行い、がんによる死亡を減らすことができると科学的に認められた５つのがん検診を市町村の事業として行われるよう、指針を示しています。「大腸がん検診」はそのうちの１つで、「便潜血検査」によりがんやポリープなどの大腸疾患による出血が便に混ざっていないかを調べます。「大腸がん検診」の対象となる年齢、実施時期、実施場所、検査方法、費用負担等は、お住いの市町村にご確認ください。なお、「大腸がん検診」により精密検査が必要（要精検）と判定されたら、必ず精密検査（大腸内視鏡検査など）を受けてください。「症状がない、元気だ」といった理由で精密検査を受けないと、がんが進行するまで放置してしまう可能性があります。

君津中央病院の人間ドックでは、基本項目として「便潜血検査」を、オプション項目で「大腸カメラ（内視鏡検査）」、「大腸CT検査」を行っています。これらのオプション項目は、検査による苦痛などの不利益もあることから集団を対象とした住民検診の検査項目にはなっていないので、ご希望の方は当院の人間ドックによる検査をお勧めします。

「がん検診・健診・人間ドック」における検査は、病気の症状がない人が対象で、がんを早期発見するためのものです。血便、腹痛、おなかが張る、便秘、下痢、便が細いなどの便の性状や回数に変化ある場合には、すぐに医療機関を受診してください。

当院を受診する際には、かかりつけ医の紹介状や検査結果をお持ちくださいますようお願いします。

<君津中央病院人間ドックのご予約方法>

直接ご来院いただくかお電話にてお申し込みください。

・受付場所：２階公衆衛生科人間ドック受付

・電　　話：0438-36-1071（内線2804）

・受付時間：平日　10時～16時

詳しくは、「人間ドックご利用のご案内」をご覧ください。